

2014 年度 第 30 回

在日アジア人留学生への研究補助

受給生紹介



東京・三田の慶應義塾大学にて

**RASAーアジアの農村と連帯する会**  
**Rural Asia Solidarity Association**

氏名 易 覃秋子 (い たんあきこ ; YI Qinqiuzi)  
出身 中国  
大学 神戸大学  
保健学研究科 研究生



### (留学目的)

現在の中国は、日本よりも遅れて高齢化社会になりました。高齢者の増加に伴い、高齢者の介護をめぐる課題も様々内在させながら議論されています。これらの中で、高齢者虐待問題がますます深刻になっていますが、これは中国においてはまだまだ注目されておらず、研究も少ないのが現状であり、研究の空白地帯であることがわかりました。その一方、日本では高齢者虐待についてさまざまな研究があり、数多く優れた研究成果が公表されています。しかし、家族看護の視点から高齢者虐待を研究するものは、日本でもまだ少ないので、その方面に関する研究をしたいと思います。その他に、中国と日本は同じアジア文化圏にあるといっても特有の国情があるので、高齢者虐待の実態も異なります。したがって、日本の高齢者虐待に関する研究のみではなく、中国と日本の比較も研究し、将来、日本で勉強したものを生かして中国の高齢者虐待問題の研究に貢献するつもりです。

### (研究課題)

昨年の10月に神戸大学の研究生になってから、日本における高齢者虐待の文献を検討して、論文を書いています。現在、次の具体的な研究計画を立案中ですが、家族機能の視点から高齢者虐待問題を研究する予定です。そして、日本のもののみではなく、中国の高齢者虐待問題も研究して、高齢者虐待問題について、中国と日本の相違を明らかにしたいと思います。比較における具体的な着目点は、両国の特有の国情による高齢者虐待問題の特徴の相違、および高齢者虐待が発生した家族の家族機能の問題点です。

氏名 Salpadoru Hewawasam Nuwan  
Priyashantha de Silva  
出身 スリランカ  
大学 東京大学大学院  
農学生命科学研究科農学国際専攻  
修士課程



(留学目的)

Sri Lanka is an agricultural country having high potential for agricultural development. However, the agricultural industry in Sri Lanka is based mainly on traditional agricultural practices that results in low productivity. We have many challenges to face in the future as a developing country since the demand for food is rising roportionate to the increasing population

Japan being a developed nation in the world is using novel technologies in Agriculture. The University of Tokyo as a leading research university in the world is the place where such new innovations have been emerged. Therefore, I believe that it is a very good opportunity for me to peruse my higher studies in The University of Tokyo.

I am conducting a MSc research on developing a decision support system for Japanese wheat farmers on nitrogen management using crop growth model. This research methodology is really applicable to the Sri Lankan context as well because the applications of crop growth models are scarce in Sri Lanka. Therefore, I am really satisfied about my research because I can contribute my research work for the benefit of both Japanese and Sri Lankan farmers.

(研究課題)

**Application of crop growth model for the decision support of rational field management by Japanese wheat farmers.**

In Japan, the protein content of the wheat grain affects its selling price and the optimum range is quite narrow. Japanese farmers have to increase the yield while maintaining the high grain quality with appropriate grain protein content, facing the further liberalization of the wheat grains market in the near future. Growth of the wheat crop is evaluated in the university's experimental farm under different agronomic practices and performance of the APSIM wheat model is being validated with experimental data. Upon successful validation this will be a very good decision support tool for the wheat farmers in Japan to improve their farm productivity and profitability.

氏名 欧陽 静雅  
出身 中国  
大学 東京大学  
人文社会系研究科  
研究生



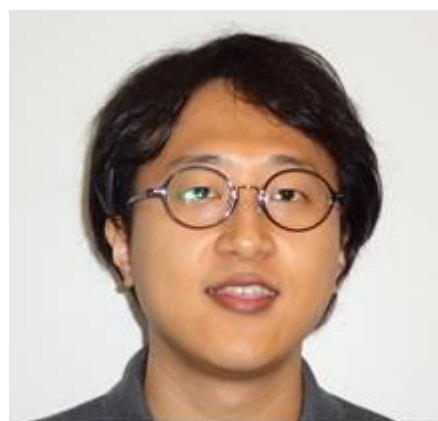
#### (留学目的)

学生時代より、日本語を勉強する傍ら、自分が生きている「社会」にも強く興味を持ってきました。常日頃より図書館を利用してギデンズの社会学の本を読んでいましたが、大学二年次、日本に短期留学した際に見た、日本の老人たちが生き生きとした「第二の人生」を過ごす姿は、私に深い感動を残しました。中国では「老後のため子供を育てる」というイデオロギーの影響を受けて、老人は子どもを頼りに老後を送るのが当たり前だと昔から考えられています。一方現在の中国では、一人っ子家庭の増加にともない、退職後子供と離れて暮らす多くの老人が、精神的に悩みながら毎日を過ごしているように感じています。現在の中国には、日本のような老人たちを対象とする福祉サービスが不足していると考え、大学院でその答えを見つけるために日本への留学を志しました。

#### (研究課題)

自身が一人っ子であるため、社会において一人っ子が置かれている位置や高齢者福祉（老人福祉）に関心を持ってきました。現在の研究課題は、日本における高齢者家族への支援政策や福祉サービスを対象に、その成果や示唆について検討を行いながら、中国都市部の一人っ子家庭の老人ケアの課題と展望を提示していくことです。具体的には、日本のシルバー人材センターを考察の対象とする一方で、中国都市部の一人っ子家庭の老人へインタビューを行いながら中国都市部の一人っ子家庭の老人ケアの現状と問題点は何かを把握し、日本における高齢者家族への支援政策から中国は何を参照できるのか、解明したいと考えています。

氏名 朴 敬珉 (PARK Kyungmin)  
出身 韓国  
大学 慶應義塾大学  
法学研究科  
博士課程 3年



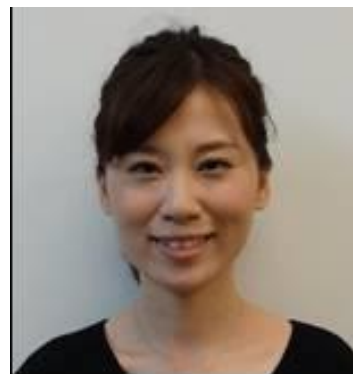
(留学目的)

本人は、幼少年期における国際経験を有する。海外からの友達と、特にタイ人友達であったオーム君とのふれあいは、やさしい「絆」で結ばれつつあった。その時に、先生と友達が作ってくれた「朴敬珉君との思い出日記」は、未だに自分にとって無二の宝である。韓国での青年期には、「情」に動かれつつ日韓の異質な要素について、おのずから問題意識が生まれていた。引き続き問題意識を、北東アジアの文脈のなかで学際的に理解してみようと、国際学部に進学した。修士論文では、冷戦期の日韓関係における人的ネットワークの研究を念頭に置き、日韓議員連盟を中心軸に事例分析した。論文作成の際に、自己経験的な問題意識は一層深まり、「今の目でもう一度見詰め直してみたい」との日本留学への目的が明確になった。その問題意識から「三角ネットワーク」論を見出して、母国と東アジア地域社会の発展に寄与したい。

(研究課題)

上記の留学目的は、戦後日本の対韓政策の枠組みを問題設定として、博士論文のテーマを「三角ネットワークのなかの日韓関係(1945-1968)：朝鮮縁故型・反共親韓型・独自協調型アクター間の交錯と代理」に発展させることにつながった。既存の研究では、冷戦期の日韓関係を政治的癒着から捉える、一種のステレオタイプが根強く定着している。本研究では、日韓両国が共通基盤を共有することによって利益を享受できていたとの観点から、その仕組みをネットワークとして捉えて、歴史的に実証する。本研究課題は、揺れ動く日韓関係に対する政策的な貢献と同時に、東アジア地域共同体の出現に寄与できることが期待される。また、本人の幼少年期から内在していた日韓の異質性に対して、ひとつの解答をも与えてくれるであろうと信じている。

氏名 楊 冠穹 (YANG Guanqiong)  
出身 中国  
大学 東京大学  
人文社会系研究科  
博士3年



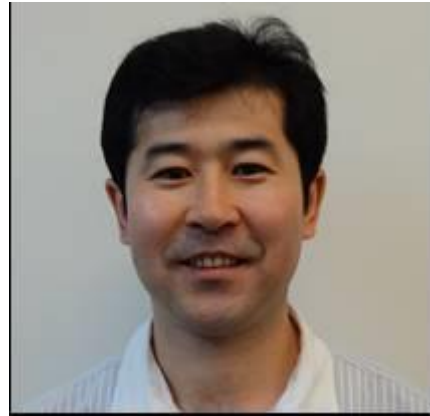
(留学目的)

日本は現代文化の多くの分野においてアジアの先頭に位置しており、多くの優秀な学者が現代東アジア比較文化研究を進めてもいる。そこで申請者は現代東アジア文化交流への理解を深めるために日本への留学を決意し、2008年9月からの一年間、早稲田大学で日本語を学ぶ一方で、各国の留学生と交流してさらに多様な文化に接すると同時に、まず足元の現代上海文化と現代日本文化とに関する着実な比較研究から出発しなければならないことを痛感した。2009年10月より東京大学大学院中文科に研究生として入学し、翌年4月に同修士課程大学院に進学しました。2012年4月に同博士課程に入学し、博士号を取得することを目指している。

(研究課題)

申請者は修士論文段階で、現代中国改革・開放政策と出版市場の変化を背景に、「八〇後」文学の形成を出発点とし彼らの出版行為の文学的意義を検討した。同専攻の博士課程大学院入学後、東方学と日本中国学会に入会し投稿を準備し始めた。2012年9月から半年をかけて、研究調査を行うため、韓国ソウル大学で韓国語を学び、同時に文学部で中国語の演習を担当していた。現在は留学生向けの教育グループで研修しており、教育産業に極めて熱心である。これからも翻訳や文学評論などを通じて、どのような国際環境の中でも日中両国の文化交流のために力になりたい。博士課程修了後、中国の教育関連会社あるいは研究機関で研究を続けながら、アジア各国の交流と平和を促進するために尽くしたいと思っている。

氏名 孟和扎日嘎拉 (ムンクジルガラ)  
出身 中国 (内モンゴ)  
大学 中央大学  
総合政策研究科  
博士 5 年



(留学目的)

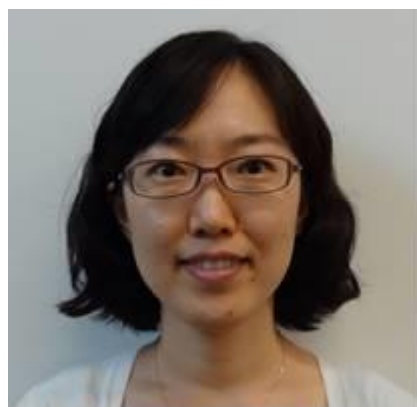
第一に、日本語で書かれた中国、特に内モンゴルに関する各種文献は非常に多く存在することと、それら新旧文献資料の収集および研究が十分に行われていないことを知り、その必要性を強く感じた。次に、日本の歴史、文化に対する総合的な理解を深め、日本の大学で博士の学位を取得することです。

(研究課題)

現在、「現代中国における『民族区域自治』の仕組みとその現状——エヴェンキ族自治旗を中心に」というテーマで中国の民族政策に関する研究を行っています。本研究では、まず民族形成の観点からエヴェンキ民族の成り立ちの全貌を実証し、1950年代中国における民族「識別」政策の「統合」と「分離」のメカニズムを解明する。次に民族関係の観点からエヴェンキ族自治旗について検討し、同地域における諸民族間のダイナミックな関係を捉え、「民族区域自治」の仕組みとその本質を明らかにするとともに多民族多文化社会の有りうべき姿を探求したい。



氏名 李 健實 (い こんしる ; LEE Geonsil)  
出身 韓国  
大学 東京大学 教育学研究科  
総合教育科学専攻 臨床心理学コース  
博士後期課程



#### (留学目的)

韓国は文化的な背景だけでなく、社会的な構造やそこから生じる社会問題などで類似点が多く、そういった社会における精神保健、及び臨床心理実践の現状や援助のあり方を学ぶことは、今後、韓国でも要求されるものだと考え、日本で臨床心理学を勉強することにしました。在学中の大学院では、大学病院や相談室などで実習が受けられ、心理臨床の実践を学ぶ上で非常に勉強になった。また、著名な海外の研究者との交流、シンポジウムの準備と参加などの機会もあり、研究するにおけるモチベーションを引き上げてくれ、実践と研究の両立を充実させられる。特に、研究テーマともつながる“外国人の増加と関わり”が日本でも関心が高まりつつあり、日本における体制づくりや援助のあり方について学べると考えている。今後、日本で学んだことを韓国で生かして研究や研究結果に基づいた実践に関わることを考えている。

#### (研究課題)

近年、外国人の増加、及びそれに伴う彼らの日本内での就職が増加していることに関心を持ち、「外国人労働者の職場適応の心理援助」について研究を行っている。日本では、まだ研究が少なく現状が把握されていないこともあり、まず、修士課程では、外国人労働者の日本における職場適応プロセスを明らかにするために質的研究を行った。結果により、異文化適応と周囲の日本人社員との関係が彼らの職場適応にも大きな影響を与えていることの知見が得られ、博士課程では、外国人労働者とマジョリティである日本人社員の異文化に対する態度を検討し、それが彼らの職業性ストレスや職場適応にいかにか影響を与えているか、どういった要因が影響したり、さらに、サポートになっているかを明らかにするために質的・量的研究法の両方を用いて研究を進めている。



氏名 Prakash Shakya  
出身 ネパール  
大学 東京大学 大学院  
医学系研究科 国際地域保健学教室  
博士後期課程



(留学目的)

Japan is one of the countries which has achieved huge success in reforming its health system and has produced many global health leaders. I would like to learn from the Japanese health system which will help me to contribute for the health system of my home country. In Japan, I would like to study about its success in universal health coverage and health system strengthening. The current department at The University of Tokyo where I am enrolled has a long history of assisting health research in Nepal and has contributed to design health programs and policies of Nepal. I have completed my Master course from The University of Tokyo under the prestigious ADB-JSP scholarship. During my master course, I conducted research on sexual behavior, migration and HIV risk. For my doctoral course, I will be conducting research on HIV infected injection drug users of Nepal.

(研究課題)

Role of methadone maintenance treatment on health related quality of life among HIV infected injection drug users in Kathmandu valley, Nepal.

氏名 Md. Shah Alamgir  
出身 バングラデシュ  
大学 筑波大学  
生命環境科学研究科  
修士課程



(留学目的)

My expectation is to complete the Master program and would like to continue my Ph.D. here. I have already passed my teaching life near about six years. To enrich my teaching and strong research background I need Ph. D. immediately. I would be highly benefited undertaking the present study as a university teacher and researcher of Agricultural Finance and Banking in The Sylhet Agricultural University, Bangladesh. The Sylhet Agricultural University is a new university in Bangladesh passing 8th anniversary. It needs qualified and trained researcher for the development of academic and research activities. After successful completion of my Master and Ph.D. in Japan, I must go back to my home country to continue university teaching. I do believe, I would be able to play a significant role in teaching, research, and socio-economic development and over all nation building activities for Bangladesh and Global Communities.

(研究課題) : **Effects of climate change and food security in Bangladesh**

**Hypothesis:** Climate change is the main cause of food insecurity in Bangladesh

**Research questions:**

- What are the effects of climate change on the farm households?
- What are the direct and indirect impacts of climate change on food security?
- What are the adaptation options of climate change impacts into food security planning and agricultural production?

**Methodology:**

The study will be conducted mainly based on the primary data from farm survey in Khulna and Patuakhali region, Bangladesh. The design will entail pre-test with a body of quantitative data in connection with several variables using a semi-structured questionnaire. Field work and regional statistics will be used to analyze jointly. In this research the data will be analyzed using the descriptive statistics, logit model and the different regression functions such as Food Security function, Impact of climate change functions. The conclusion will give based on the best model to study the impacts of climate change on food security in Bangladesh.